

指定管理者の管理運営に関する評価シート
(評価対象期間：令和6年4月～令和7年3月)

施設名	久喜市偕楽荘	
施設所管課	高齢者福祉課	
指定管理者(団体名)	社会福祉法人 久喜同仁会	
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日	

1 事業運営、利用状況

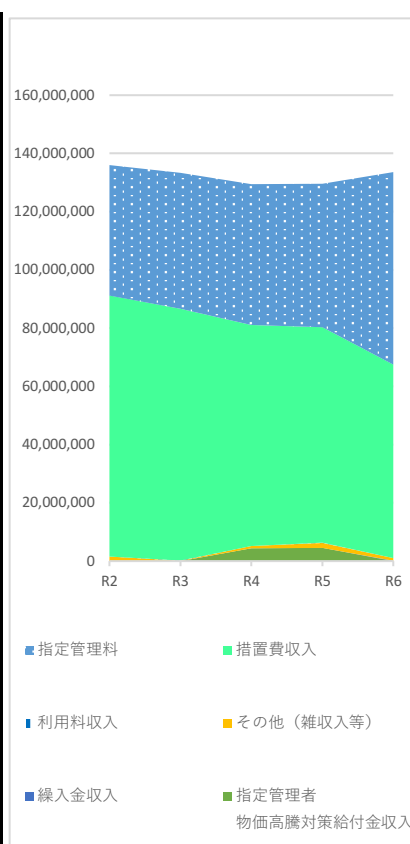
指定管理者の行う事業内容	基本事業：老人福祉法、久喜市養護老人ホーム設置および管理条例等を遵守した入所者の生活支援。 一時的に家庭で養護できない在宅高齢者のショートステイ事業。 自主事業：個別支援の実践・リスクに対する予防・食生活の充実・日常生活動作の維持及び向上。 入所者の健康管理・権利擁護と人権の尊重。			
事業計画に掲げた 主な事業の実施状況	☐ 事業計画に掲げた事業は全て実施した			
	☒ 事業計画に掲げた事業のうち、一部が実施できなかった			
	理由	実習生等の外部の方の受入れや外出行事の回数を増やすことができた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに罹患する利用者がいると、その都度入所者が全員が一定期間の個室対応になってしまうため、コロナ禍以前のような実施状況には至っていない。		
	主な実施事業、事業内容及び参加状況			
	事業名			参加者数
	①ショートステイ事業の実施			1名
	②生きがいと生活圏の拡大（レクリエーション等、行事参加者数）			延べ1,006名
	③利用者の健康管理（通院付き添い延べ人数）			延べ283名
	④利用者の食生活（選択複数献立参加人数）			延べ333名
	⑤- 1. 洪水を想定した避難訓練・通報訓練・消火訓練・炊き出し訓練 2. 地震を想定した避難訓練(夜間想定)・消火訓練・通報訓練 3. 火災を想定した避難訓練・消火訓練・通報訓練 4. シェイクアウト訓練 5. BCP訓練（①自然災害 ②感染症）			1. 利用者26名 職員6名 2. 利用者22名 職員6名 宿直2名 厨房1名 3. 利用者22名 職員10名 厨房1名 4. 利用者19名 職員4名 5. ①職員 9名 ②職員 8名
施設の利用状況		令和6年度	令和5年度	増減
	開館日数（日）	365	366	-1
	利用者数（人）	11,465	12,987	-1,522
補足説明	「施設の利用状況」の「利用者数（人）」は、延べ入所者数を示している			

2 収支状況

(1) 収入状況(直近5カ年の決算) 単位:円

項目	R2	R3	R4	R5	R6
指定管理料	44,761,000	46,669,000	48,327,000	49,338,000	66,168,000
措置費収入	89,662,857	86,440,333	75,858,942	74,017,794	66,492,708
利用料収入	33,058	57,674	0	29,802	13,258
その他(雑収入等)	1,540,859	141,637	849,617	1,695,293	890,488
繰入金収入	0	0	0	0	82,728
指定管理者労働高騰対策給付金収入	0	0	4,384,060	4,555,040	0
収入合計	135,997,774	133,308,644	129,419,619	129,635,929	133,647,182
(デイサービス合計)	33,346,783	30,083,251	36,499,557	35,810,109	93,367,151

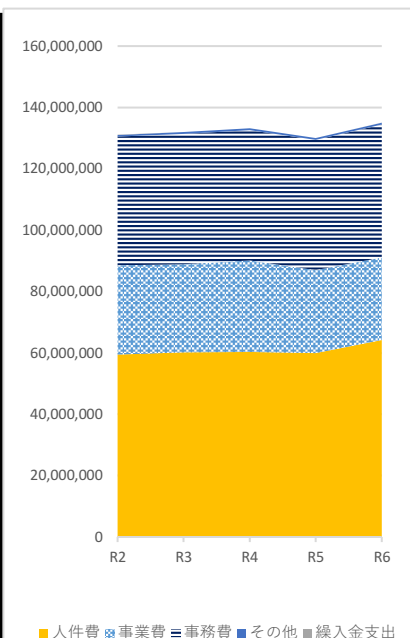
補足説明	・デイサービスの収支計算は、養護・ショートステイとは別に行っているため、グラフには反映していない。				
------	--	--	--	--	--



(2) 支出状況(直近5カ年の決算) 単位:円

項目	R2	R3	R4	R5	R6
人件費	59,471,356	60,224,694	60,283,400	59,899,223	64,180,226
事業費	29,125,578	28,661,257	29,809,028	27,074,395	26,953,264
事務費	41,858,528	42,484,726	42,543,865	42,469,312	43,299,409
その他	567,600	571,200	572,400	576,000	594,659
繰入金支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
支出合計	131,073,062	131,991,877	133,258,693	130,068,930	135,077,558
(デイサービス合計)	36,269,537	36,981,366	39,451,442	41,685,147	33,460,766

補足説明	・デイサービスの収支計算は、養護・ショートステイとは別に行っているため、グラフには反映していない。 ・措置者数の減少や光熱水費の上昇により、収支差額がマイナスとなっている。				
------	--	--	--	--	--



収支差額	4,924,712	1,316,767	-3,839,074	-433,001	-1,430,376
------	-----------	-----------	------------	----------	------------

3 管理運営

施設の運営業務	開館時間	3 6 5 日無休		休館日	なし
	管理体制	有償スタッフ13名：常勤職員10名（施設長1名、主任相談員1名、相談員1名、栄養士1名、看護師1名、事務員1名、主任支援員1名、支援員3名） 非常勤職員5名（事務員1名、支援員4名） 委 託：給食業者（株式会社グランディック） 管理宿直（久喜市シルバー人材センター6名 1日2名勤務） 嘱託医（あかりクリニック院長 月1回来荘）			
	職員研修	・職員会議 年間 12回（参加職員延べ 106名） ・施設内研修 年間 15回（参加職員延べ 133名） 【事故防止研修・入浴事故防止研修・高齢者虐待防止研修・身体拘束廃止研修 ・感染症予防研修・苦情解決研修・BCP研修】 ・法人内研修 年間 3回（参加職員延べ 3名） 【食中毒・インフルエンザ・ノロウイルス】 ・施設外・オンライン研修 年間 22回（参加職員延べ 70名） ・高齢者虐待防止検討委員会 年間 4回（参加職員延べ 36名） ・身体的拘束適正化検討委員会 年間 4回（参加職員延べ 36名） ・介護事故防止検討委員会 年間 4回（参加職員延べ 38名） ・感染症予防対策委員会 年間 4回（参加職員延べ 32名） ・法人内苦情解決委員会・身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会 年間 6回			
施設の維持管理業務	・水質検査、エレベーター点検、消防設備点検、自家用電気工作物保安管理等の施設管理は、業務委託をしている。 また、点検時には職員が立ち合い、不具合時に職員が対応できる方法を確認している。 ・職員が館内清掃や除草作業、月に1回建物構造等の自主点検を行うことで建物、備品等の劣化や不具合の早期発見に努めている。また、職員において対応できる不良箇所はホームセンターで資材を購入し、経費削減の観点から修繕を行っている。利用者の生活に直結をする設備の不具合は随時担当課に報告をすることで利用者が安全に生活できるように努めている。				
指定管理者の提案による新規取組みとその実施状況	企画提案内容				
	①偕楽荘の広報 ②家族会の実施 ③利用者家族向け講座の実施 ④ボランティア、中・高校生、大学生の体験学習等の受入れ				
	企画提案内容の実施状況				
	①担当課から埼玉県内の養護老人ホームのない市町村や民生委員等の関係機関に、メール等で案内、パンフレット等を送信していただくことについて調整を行った。 ②ご家族に一同に集まっていたくのではなく、都合の良い時に気軽に来荘していただけるよう面会と外泊の調整を行っている。来荘のないご家族についても生活の様子について必要に応じて電話連絡を行っている。 ③家族からのニーズがないため中止とした。 ④大学生の介護等体験の受入れやボランティアの受入れを一部再開した。感染症対策もありコロナ禍以前のようない受け入れは難しいため、外部の方を受入れする代替として施設内で集えるレクリエーションや外出行事を多く取り入れた。				
	☐	企画提案内容が予定通り実施されている			
	☐	随意指定のため企画提案はない			
	☒	企画提案内容が予定通り実施されていない			
	理由	高齢者施設のため感染症対策を継続することで、コロナ禍前と同じ対応をすることは難しいため、「利用者に楽しんでいただける今できること」を考え提供したため、一部実施することができなかった。			
	今後実施予定の企画提案内容				
	・偕楽荘の広報として「生活支援課や民生委員等の関係機関に対する偕楽荘の説明会」の実施 ・外出行事や料理クラブ等の回数及び範囲の拡大				
利用者満足度向上への取組み	令和6年度は年2回の食事アンケートに加え、夏祭りのアンケートを実施した。利用者から希望の多かったメニュー（焼き鳥、きゅうりの浅漬け、スイカ等）を取り入れ、喜んでいただくことができた。 物価高騰によりお寿司の提供は難しかったため、希望のある利用者には出前をとっていただいた。通常のメニューでは、可能な範囲で喜んでいただける献立を取り入れた。おでんの時は1品減らし、おでんにボリュームをもたせる等の工夫を行った。 また、料理クラブを企画し、多くの利用者の方が参加を希望され、作る楽しみを感じていただきながら安全に実施することができた。「また今度もやりたい」という声が多いため、年間計画を立て多くの方に参加していただけるように企画をしている。				

4 その他

情報提供・広報活動に関する取り組み	・久喜市と法人のホームページに偕楽荘の案内を掲載すると同時に、電話によるお問い合わせや施設見学のご希望に対して丁寧に応じた。平均入所者が31.5人、稼働率62.8%であることから、担当課から埼玉県内の養護老人ホームのない市町村に対して、メールで「偕楽荘をご理解いただけるように写真を盛り込んだ施設概要」や「生活の様子をイメージができるようなパンフレット」の案内を送信していただくことについて調整を行った。 ・養護老人ホームは各市町村の福祉課からの措置入所となるため一般向けの広報活動は難しいが、偕楽荘（ショートステイ事業含む）のリーフレットを本庁舎、各行政センター、法人各事業所の窓口を設置している。電話で問い合わせがあった方にも必要に応じてパンフレットを郵送している。		
個人情報保護に関する取り組み	・業務上取り扱う個人情報については、個人情報保護法ならびに社会福祉法人久喜同仁会個人情報保護規程に従い、記録等のキャビネット保管（施錠）、USB等の記録媒体の保管と持出し禁止等を遵守している。管理宿直の久喜市シルバー人材センターにも同様に遵守の徹底をお願いしている。 ・虐待を理由に入所し面会制限のある入所者への電話の問い合わせの対応方法、来荘者の対応方法は全職員が同じ対応ができるように周知徹底をしている。玄関には来荘者に対して「個人情報の取り扱いについて」の掲示を行い、施設の姿勢を示している。		
危機管理に関する取り組み	・策定した「新型コロナウイルス感染症等発生時対応業務継続計画」、「自然災害発生時における業務継続計画」を研修等を通じて全職員に周知し、見直しを実施している。 ・引き続き、感染症防止対策の継続と『養護老人ホーム新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル』を遵守している。 ・消防計画書に基づき防火設備の自主点検を毎月実施。年に2回（うち1回は夜間想定）の消防訓練を行い、年1回は久喜市ハザードマップの予想水深を参考に「洪水を想定した避難訓練・炊き出し訓練」を実施した。		
市の監査状況	実施日	実施場所	監査結果
	令和7年3月19日	偕楽荘 事務所内	令和6年度久喜市偕楽荘の管理運営状況は、令和7年3月19日に実施した監査にて、適正に処置されていたことを確認いたしました。

5 総合評価

施設所管課の一次評価	A□	事業計画等で掲げた水準等を上回り、かつ前年度実績を超える成果を達成し、優れた管理運営がなされている
	B■	事業計画等で定める業務が履行され、管理運営が適切になされている
	C□	事業計画等で定める水準等を一部が下回り、努力が必要である
	D□	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善を要する

施設所管課の判断理由

指定管理者である久喜同仁会は、日ごろより施設運営に創意工夫を凝らし、課題解決に努めている。

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症以前の生活に徐々に戻ってきており、久喜市偕楽荘でもイベントの機会を増やす等に積極的に取り組んでいた。また、入所者の増加を目指して市が広報に使うパンフレットの内容の見直し等に取り組んでいる。新たな入所者を受け入れているが、現入所者の死亡もあり、入所者数は差し引きで増加していない。

また、入所施設であるという特性上、施設内で感染症の罹患が確認されると、感染拡大防止のため、入所者全員が一定期間、食事も含めて個室対応になる等の対応が必要であり、今後も完全にコロナ禍以前と同様の生活に戻すまでには、今後も時間を要することは止むを得ないものとする。

以上のことから、制約がある中でも工夫し、事業計画等で定める業務の履行に努めているため、「B」評価とした。

公の施設管理運営検討委員会の二次評価	A□	事業計画等で掲げた水準等を上回り、かつ前年度実績を超える成果を達成し、優れた管理運営がなされている
	B■	事業計画等で定める業務が履行され、管理運営が適切になされている
	C□	事業計画等で定める水準等を一部が下回り、努力が必要である
	D□	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善を要する

公の施設管理運営検討委員会の意見

- ・高齢者入所施設のため感染症対策を継続しつつも、利用者に楽しんでいただける事業を工夫して行っている。また、ボランティア・実習生等の受入れを再開し、外部とのやりとりの機会が増えた。
- ・入所者の要介護状態による退所等で定員を割っている状態であるが、県内で養護老人ホームのない市町村への案内パンフレットの送信や、生活支援課や民生委員等の関係機関に対する偕楽荘の説明会の実施等、利用者の増につながる取り組みを実施している。さらに、施設の設置目的を鑑みると必要な施設であり、指定管理者による継続した管理運営が好ましい。
- ・3年連続で収支がマイナスになっている。今後中長期的な視点から、事業内容を見直し、改善策を講じる必要がある。